

2012年 3月17日・京都新聞「ほん」欄では

京都 桜の縁<sup>えに</sup>し 浅山泰美著

小説、短歌、写真、ライター（竖琴=たてごと）といくつもの表現手段を持つ京都在住の詩人のエッセー集。4章42編をつづる。

レトロな香り漂う街角の喫茶店、別世界へいざなうかのような狐（きつね）の杜（もり）、家族同然だった猫との交流、人の心を引きつけてやまない桜の姿―。

京都の街がかかえるものを、静かな筆致で切り取っている。セピア色の心象風景さえ伴うようだ。

と紹介されています。